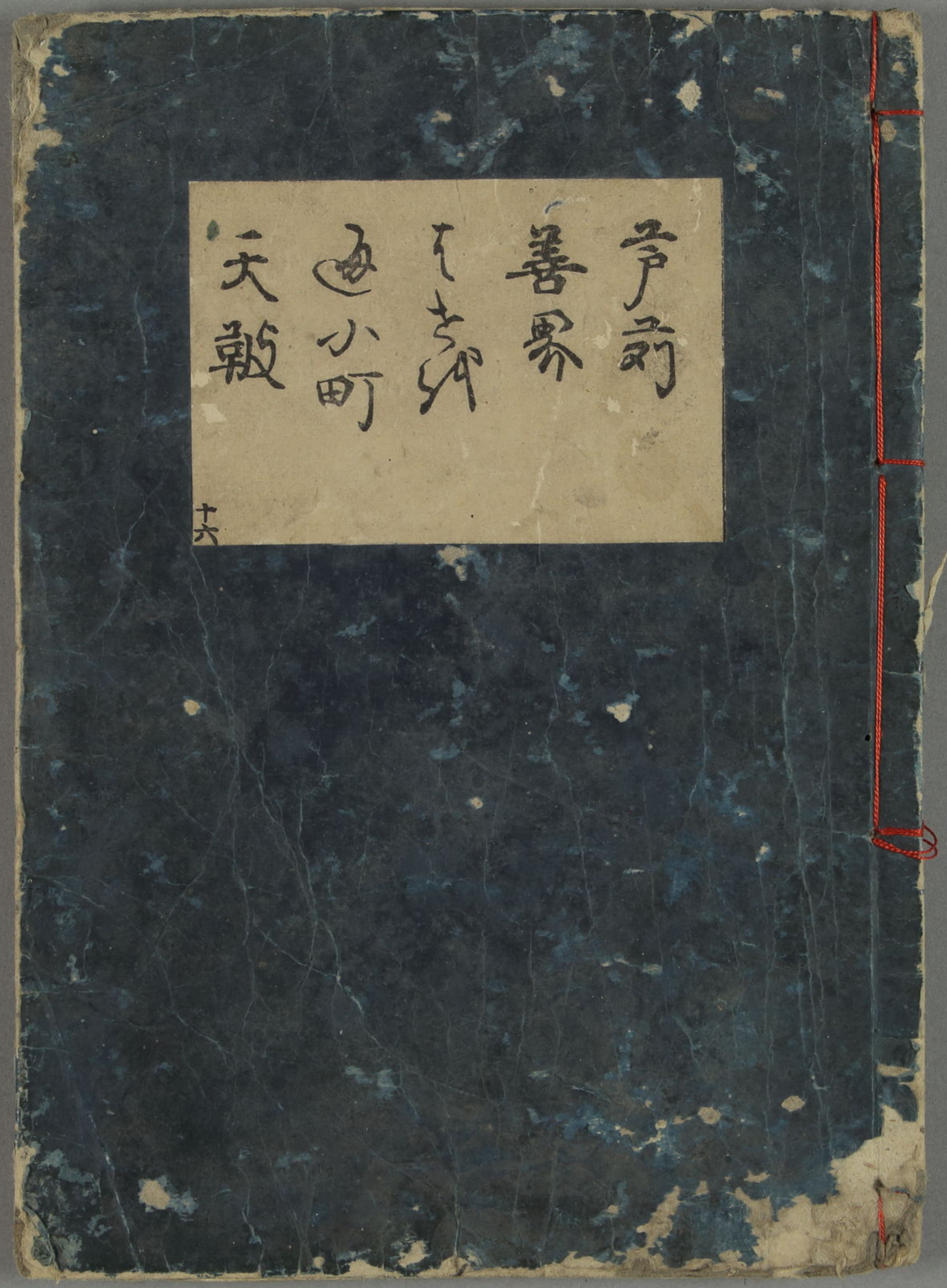
戸前
善男
善女
西小町
天敵
十六

天鼓

曲出一ノ型影　位序破
位開　居　世阿弥作

[illegible]物始ル
ツヨク
〈脇出〉
身板大口袖
ケヲ脇方
ゴサ〳〵ヒヒ
ヒ扇又右
ホ立ヲ〳〵ト

昔唐後漢の帝の仕へ奉る臣
備も此國の傍ら王伯を安らへ奉る
者なり彼者一人の身を申す。其名を
天鼓とぞ申すく。此天鼓とは何れ
の所にか安置申す天より降りし乃
鼓なりけり陪臣は帝をみて此

走りて玉を天敵と為す
ぶ段天より成乃敵降りてハ
玉を取りてハ人感を得きり此由
帝国乃敵を内裏より行て天敵
深く指敵を抱き山中隠れ
行慶り地ハ宮人をつてさり
出ず天敵をハ呂水乃江より乃敵をハ

内裏より行て房殿雲龍間まで人直れ
てけど段波敵をういきり出れ
受まりて有ばいり打れ玉の子を欲き
有ると思入食りて同波者父母伯を
年打きりと乃宣旨を仰ぶ王伯
う私まへと乃 世イ云テ 露乃世を打老の
月雲いをまて明日此秋を弱り流

△天大王蘭一
壱斤越序の破
田世面三光又小
刷白衣乃長き
り扇

傳へきく孔子八鯉魚よりまさる
ものなし白居易八子孫
に
てうれいを弱き藥を捨て貴き義
禮智信の五徳
らう歌くハ咎なしと思ふ
なるべしと
なのあらや浪華

みくにの「キ」掛て天敵の敵国重
みたれてはぢをとゝきゝ多れば更よ
ある度なりゝ御手柄の者をあつき
なるべと思召まして同じ伯よりまして仕
この宣旨をうけ忠義仕候へ
信義を守り仕候へ勅命をたがへぬ敵の
者をうしまうてたまはゝとて仰せ

（金）其元のくすのあと八郎伯と
ちてうとせう
ゝくきとの勅
宣旨をうけて

（金）いやくを先八
ゝくめ手科の
者の父母兄
ゝくるうをたゝ
かりたゝかひ
まうて。うさを

聲乃出くさうだやくくも思ひ
勅命を背し者乃父母兄がさねて
失されん為ゝ
ちゝ母乃ためよ夫八郎を
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]
[illegible]計乃勅宣あり忝くしまつる[illegible]
[illegible]
[illegible]

よあつく蔭をかくはさくば讒謗の
矯まる可をきゝ
世ごとの乃ひの親よまれて蒙
鄙者の男り深くば恨しきへを恨
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

老人の天敵のもとの出るやうに思ふ
気と思ふ〻同じ老人よりは乃賓を下
り水のいろは
幸あり天敵
とは吊ひを
つさあり老人
敵の〻はは
の意とあ文
ら人こころ
ちやうふ私宅
ゆりの久しく
の意やさくは
生ゆりん

△中入脇狐
ちうふ

[illegible]
僧を天敵の
を完めて昌水の堤の

所幸所〻同じ法華天乃敵まと人 上ニカニ 糸行
呂律乃ちよう〻ぱくぱくをあつて
あさ師を吊ひう有孫さぶたる初秋の
をなすきは早三伏の夏先き風一拝れ
秋の空夕月乃ちも照うひく水
漏〻て波偽〻う 上ニ 板ニテ上ニ 一ニ行 蒼乃孫
乃沛吊はやあ初を賀キ一天四討て

△天敵
敵破 出五 童
子を孫ま
法祖ま切扇

呂水よ流るゝ水のあまいばかりせる
者こそ海よ流れ流れて行きて所美の
きめて陸あるこそ思へさて外の浦
吊ひよ浮ひ出るこそ呂水ゝ墨ゝ
よ省孫ゝよ 不思議やおもちや変
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

巻津て　月宮乃音もかやとうう
早　天人も影向　室蓮て宴よ天降り
まし勇くまて南ゝうあう天宴報
清　うあうし其特乃　呂水のあをそ
濃くとうあう　汀乃色ゝうに
急行乃濃の簾　楽に有猶や　面白
やすまきまく　楽あれや　松乃

聲拍子を　払つく月も涼く　星も
ありしの宣あれや　鳥鶴乃　橋のやよ
紅葉をもさ　二見乃やうう　前よかと
冷うあ　更て　夜半楽　やゆ
八岡乃　水を南　星　北よたんあく　宴
天乃海つ　の浪たう　呂水の
堤の月　嘯き　水よ　動き　波　かう

袖をそよぐや夜嵐の音楽も耐えて
五更の一点鐘をあり鳥の八聲の
やうくとぶも明ちかぬ時のつゝ
敷をつゝ出ちまつ乃色よ折窓て
うつゝ夢うまくらうちてうつかう
まうとうてありよきれ

善家 出山ノ禮歌 位閑居 仏序破 与二帰始

△方丈出場 次第オ 之五面 仏巾 修羅 水衣 口ヲ 刀 数珠 扇 △掛合歌金 カハルキチニ

雲路を去乃ぐ松の音ぐ知る日出
方を寿ぐ 明 月くハ大唐の天狗ハ頂
善家序ハて 仏僧ハ我国よりをひく
育王山青龍寺 学者参よ至りまて
ゆ乃慢心乃者ハ皆我国よ後引
きひと云ハ有ぐ 誠や日本八葉散遍

地の小國なれた非國として仏法今よ
さらむ由承及び作間意き自今よ
寝堂仏法をもさかんたきりやと思ひ
立て作ろ行ろ豊節厚の國津
非ッく者うおだ〳〵よりあろを
お國乃やほう乃露あまきや社津嶋
根乃朝開ッうを行て去る〳〵信の月乃

非の信國を見かとよく 高作
猶よ見きりや月乃地よ見てしぬを
家ひしる愛宗山よ立郡だ郡信
善光とトさりやと海ぎりや光宮
山のてうきよぶ乃海丈乃てうぶ見
社郡か住へき所をひへめよ善光
ひ 非みて海うたて 月乃 見八大唐乃

天狗の首領、善東房をして作かばめよ
多くの弟子をつかさどる事のたぐひ、
りんくしまりうくしん
柳生殿ひろる
善東坊をく濃り作うど果かを菴室へ
入べ備えうかさ空行の馬をく
作そ　ミテ　引ものを作ひとまる事入まの後
まうひ秘ふとして すこも慢ろの

事をば皆和道を後引きひとりの
あり滅や日本ハ小國あれを神國ら
て佛法入うよりあるを邪魔ひ
多く遠くまきをしまうて國部ハ志を
うくうくう貞俗の本意を達ず
柳生やすも男食立ひ如ひ天和
國ハ天地開闢ら此方ぞ外國ら

されば法会のよき初めぞ
はじまりぞ
叡山あまきこそ日本の天台山なれよ
心乃まゝに仏乃給へ　法会のよく便
あるべき天台の伝法灌頂二教のかち
顕密兼学
密家の奥義を
乃而ありを　和尚ぐるぐるの顔ひらて
やゝ仏乃給ふ　和尚スリ蟠蛭の者
とりや猿沢の池の
一ゝ　ゝ　ゝ　

無無明相もきはまりなく大悲慈悲
乃佛恵凝然不動の理を顕はし但住
一切世間不動の中ごとに有為悲願うれ
ひ色界無色界の輪廻乃道をさやかに
魔境よりうしに異類きぶ思ひきらまや
ぶかりぶかりさとりの門よりぶひろ見る
ぶ法乃真縁の功よりぶ三要道をさ
ぶりぶ尚を寂滅畜乃分をのりぶくぶく
仏敵法敵とぶわれぶさぶ迷ぶを
欲ぶひぶ生死乃屋ぶくをぶぶそぶ
う後者乃智水をぶくぶ火宅三時の焔
を消すきぶぶ常ぶ夢ぶうう
うぶぶも菩提いさやぶ雲乃ぶ月ぶ迷
ひをひぶへ一時服きんとハ思ひぶ

いよく秋漫の旗手ぶ乃ぶ
いろ〻ゆく者の家を伺ひく降魔の
利剣を振ふそうまきかうて八
世間うちまんべんたる苦よ立て比叡
乃山ちうちくんや法乃ちあい風そ
乾坤の山乃ちよ頼を振く思ふ
雲のかきりうち滴り秋ゆうそよ

△本序中入ラ
コニテ
△僧脇三人一
色裁被ヤ之
俤正水衣各
殊数嘉紋和
ハツレ僧車ノ
九右ニ立一色
四車出ス

高雄山衆をみきハ大比叡や横川の
秋乃梢ちうり南よつゝぬ立り嶽鷲
乃山の雲や霞も冠とさようきよ
きく
秋ちを松をむ
ゆうぶく元冠内出
つゝ行きやあまよみたうさぐり

△大夫和尚早
笛ニウカヽ古代
おそ三本ス大沈
巾拭を皇帝
待衣古ヲ本切
面大癒見多
四扇殊勝

善財童子

松の上ニ棲の滝吹き落ちて雲かと
あう雨とまがう山行き震動して天より
かくやくかくやくとひらめく雷光
月魔をとらえんとして行のゆくや
うなく 相見て天魔乃天狗共
貴頂善東房と八幡宮しし
やめよと形房べら更行乃観会をとる

きらぎらと若作障碍印有一佛魔境と
ぬるぬるおそろ痛りやすく欲界乃ぷつぷつ
宮方 悟りの眉毛や真まるく魔眉の
ちまちまとめの涙ぬぐさやかやのぷ
おとりもの 那法を唱つる色まわり
おやより魔ぬ如して凡夏天二あり
自性清浄天ぬうごきあき異を不動

[illegible]
[illegible]若[illegible]聽我說者得大智慧
[illegible]たらるるかん[illegible]長者[illegible]の
[illegible]ようそう明王あらはれ給へハ
[illegible]多伽十二天をのく陪從
[illegible]を合をて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]南よりこの山西より松乃尾か野や賀茂
[illegible]乃[illegible]を吹[illegible]
[illegible]行乃つぎもゆよりちりをも
[illegible]ゆ[illegible]八鴻乃波のたちかをも
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
海を雲路に入るまで

芭蕉

曲世ノ位閑　曲世ノ息子ノ位序破立　世阿弥始

僧脇一人
曲さるみの
扇指殺生懐中

雪

冬の唐土我国の
ものいうぐさひいと
高き器を備へ
持参の多れば
讀ものごとく
月のようをこと
ものきなれるすが
[illegible]
[illegible]
[illegible]

きてゞ人もまくらなどかく
讀經乃和尚宣乃あるりよ人乃
をとゝ乃風しゆとおもしなまつてゝ
めつらかなるこゝろを寄りやと思ひ
サレ
暗よ夕陽西よりうつりかうの陰
冷しきてゞ鳥のうたゝ聲よあすき
上美
ゆふ乃空もほのぐかすみ月よ

なをゆく山陰のおやくまくとあれ
ば
業乃戸ゝぎ御經を讀誦もろく
宋
芭蕉よ枝ろく松乃色ゞぐあるや風
サレ
乃ゆゝ音　風をうゝをひく燈
きしやをく月ろくれくをかゝてゆめ
ありかなき秋乃ゆふ雨かゞぞの
冷きき山陰よりを白露のぞり

（左史お陽次第
ゆゝ一ゝゝ小僧
考代ゝゝ
田立西小面又保
ちゝくゝ増白衣
唐獄經箱きゝ
り扇殊扱扨
金彼宗七対て

[illegible]
[illegible]
[illegible]

今はたゞかりの言葉なれども
うらを返すまことのためさ結
縁よかさを給へとよ　年門　きよく法乃
結縁へ誠は妙あるを事なれば
おろかなるを女人乃御事　井門
其女人
いとゝお宮をまつらひ　其女人を
幸まれた留有人あらば我もまた

だとみり色変りきらひ乃　年門　おの
まれを洗たらあまりとよ　年門
上青　一樹乃陰の　菴乃うら
団　おもまの月もかりなの露乃宮く
うもかさほも寺の松ハ屋上乃
ゆまを彼き行乃ゆくなを
下　乃月乃影もまたまの　年門

かいひ蘭省の花の時錦帳のもと
ほろゝかの雨の夜草庵のうち
思ふまゝ月よ清き志深くれば経讀
誦の程四八八 あらう経や洗ひ経
を聽やすゝをぬれおとさきの人非精
草丈のたゝひ迄も頼もう社へ
甲 ようく御聽問んあれば一会陪奉の

㊟一切の女
芝本―
㊟切八九分
ゑ張や

信忘れぬ一切非精草丈のたゝひ
まてもゆかうとうひのとき
ほとゝぎす鶯やさてしく世丈成佛玄
ぶくれをれも去家の経 乗芝翁
あゝくれて草丈岡去ゝ精非精
貴これ諸法実相の
甲 袋の水音 仏ゝをあやまるの

うつろふ色もとめて折らうよ　上美濃三井寺
背きくひ月のもとぐくばもよ　燈を
情ぶかさよ乃ぶを忘るもほの人
繋ぎ〳〵乃まゝ思ふ乃い色
おく〳〵火を乃ぶ道あまやぶれも
柳いみ〳〵ぶ八ふれも井と忘る事も
吸ふまゝ乃ぶ香のちよ求もぶ佛乃

岡去ゆ岩乃岡　上野北
やねもとゆ　ゆき
ぶ乃ゝゝう白ぶ乃ゝう吹れ　計
中〳〵よ行疑ひ　角乃ぶ八ぶの宮路を
ゝゝひまくひとあ　ひかさはゝゝ分と
きいゝ思ゝん　受値ゝさ法よあひ
うを弱さ乃人界を　袁負ゝう

一やの月屋もる人ぞ宋
さつきやろさの
道ちやうも昭月の象きさかう庭
乃面の宣乃平の芭蕉乃べつそわる
ゆまとをみそつわんとだるへい
鐘つ拝諸行無常とあるよきりく
乃くい宣乃うれきれのぷついきる
ゆとやえ嶽ひるさ芭蕉乃ぬを

△中入者は中入
ちゆきたひ入ちの
ちゆへー脇を
ゆ和ちの脇

【半月】

ぬうれきそうきれいな夏
法乃きそうぷ思へいうしう
もつ月もゆあるの法乃場所の芭蕉や
つるみんく
面やおくう孤やゆあるの教よを
ぬつまれなうとんきうぬまるひ
たる芭蕉塔乃ぬ法の雨もゆさるる

△夫婦傷声
越出之面業
長痛きぬ絵の
ヨー大ひ又小雅

上言

（金）ろうきあるを
とりたてるき

露のめぐみをうくる笹の人宿を海
御海のきよがたうきあへる
花をあさ　蓮の露のかりまさる
庭のうを山陰のうつり
ともあさ松ねのぶらきをすまを
きぶうつ人のほをありもあれ
海のあへの成人うつ　いや人ちうつ

（金）のうたてて
ぬ

あやまりけりさめあうねの
去もあよ去もあよりうつ
めくうをあうを秋をうぬ
かりや成を秋の非精のをいを蓮の
あうをうつ　早うをやをを成の女を
とけけうをのをを
うをうをををうん　女河　裏御の審を所
早　去もあよ去もあよりうつ　女河

六精非精も　廿

ありとて　月も雲ある　せて

上三月

月ありさたらあるよ色蕉乃女の

宸きうひ色乃ぷうめあるよりて

ぷうろひもうや　夫非精ま

求といつそ滅ハ無相莫如乃法一廣法

界乃心地のうへ雨露霜雪のかう

一ハ行コサシ廿一

ぷうろよ一枝乃花をうく

ぷ法乃色とあうひや一花ひきて

一ハ行ナニヌネノ

空方乃まのけさ空乃目見をうく

楊梅桃まうすくう乃　廿　色香のそある

ぷまて諸法実相陽も　名　味う

ちさ樓臺ぷまつ月をうあり陽よ

ひ人面花木ハまう　廿　ぷまよあうのやちさ

あつ[illegible]見ることはつもれば[illegible]
[illegible]の[illegible]や[illegible]
[illegible]の音信[illegible]風の[illegible]
[illegible]
[illegible]草[illegible]
[illegible]風の[illegible]芭蕉[illegible]
[illegible]露の[illegible]

[illegible]
[illegible]の秋とそ[illegible]
[illegible]上井[illegible]
替[illegible]や男[illegible]
芭蕉[illegible]夢の沖[illegible]鹿[illegible]
[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]
[illegible]風の音[illegible]
[illegible]

久遠
「こうひ月も雲うへの
北
「ほりの宿まつ
ものもち風 霜月
草の孩も
下廿
ぬきうつよかる
上廿
久かのくぬあまつし芋羽衣あれや
北
「思もまさぬ乃
そひたりしを芭蕉乃あさのう歌
そうくとおもとこきめう寺乃庭玄
ありふ
いちぬきなへ
うつろふ露のまよふ松乃を
咲ちひくく
花もちちも
やまてあ

通小町

位序心口傳白拍子
世阿弥始

彦慕衣佛

早河

是ハ瀬乃山寺より一夏を送る僧
なり。宵よりつくも髪を結ひ人
毎日こうたを持てきたりけり。

金 ホの字元教
をんなやとうろ
ん

しこうも参りてはいつぐに人とと
もに寿ハやと思ひ

第四段

ツレ 二人ツレ面
ツレ 二人ツレ面
右ハ原左本の型

たきものくゆるあ神さまかあるき

通小町十六之番

金ハ市原野のあたりよりはなうてい
ものゝ所なるを知て毎日
ものゝ事あるものとおもひ
て待りは忘れて
ろ那おいのハ
ものゝこの梅ゝと
ものゝ中ゝ
はたゝ人ゝれ九ゝの
ものゝて悪逆大
ものゝ伊飯田の紀さま
ものゝ社おのゝ方ゝ
ものゝ芝橋の仮新
ものゝ

梅も八重の山里よ貴きゝ人つゝ
狩ゝ
いつもこゝろ
ゝまゝを
ゝ
ゝ
ゝ

花ゝらハあの一ハ三枝く　年行　こうこ世

ねゝハ所あ梅ゝ世ハ名ハめ所あゝ人う

名ハ世ハ名業ゝ人　井上　すゝりもうゝやゝとうう

名を　サラリ　小野　ア　とい世ハ薄ゝ世ハ

市原野ゝよゝ所ゝ世ハ

命入歌乃　れ　傳ゝてかきゝ人ひやうゝ支ゝきりく

年行　かゝ家かゝきゝ事ハ世ハ

㊟　ゝゝ今の前の条ゝて入ハ

世乃名を書く書て人も小野ゝ原

いゝ薄ゝゝ市原野ゝよゝ所ゝ世ハ

ゝゝかゝきゝやうゝ失て仮賓ゝ

あハもゝゝ人市原野を通

ゝゝよゝゝき一村ゝゝ陰ゝゝも

世乃ゝゝくゝゝつきてもあかめ所あ

小野ゝハいゝ薄ゝ所ひきゝゝあゝ世

小野小町の子也。髪もなくなりて
女性小野小町の幾世と思ふに猶
彼方系路よりこまうの跡を吊
上言
りやと思ふ作　尺この草庵をたづね
出ぬ　ア　ウ　ア　ウ　ア
ぬ　ア　ウ　ア　ウ　ア
△切脇好家才
ぬ　ア　ウ　ア　ウ　ア　露ときき市風
ぬ　ア　ウ　ア　ウ　ア　ウ　ア　ウ　ア　ウ　ア
ぬ　ア　ウ　ア　ウ　ア　ウ　ア　ウ　ア　ウ

金 狂乱ノ方ハ

がきなくうきめを三瀬川ふかきそて
あしか潜乃ざつきを見へるひもろまし
ぞやゆり絵へやぶ潜乃潜乃上言ハ
ぞハ来ぬ戒カよひわかおかい
ぶ潜ゆりちりぬをいれ去よ戒をうきを
人の心乃ちり雲乃ぽへくるし四乃
月ぞくれ潜よとりわんと落を分

出きぬ出ぬ
きぬ
ぬきかぬ
山乃ちをきのくぽ
まし
ぬ
うくやを時
孩をぬ
ひ
孩ぬ
ぬ
ぬ

金 楓川深雪の女房衆と小河の

深雪の小将　中川　拙小野小町四位雲

かすみのくまもまことや迷乃事か車

乃揚よ百夜通ひ　雪をまちつくれ

みきとへ　廿一　本うら　秋吉白雲乃ながれ

三十四　思ひのうきもとよりね

車乃揚よ百夜通ひ　偽りを頼と

二十四

金 後と思ひ暁毎に

思ひ暁ごとよ百ひ車乃きらよゆまた

廿上　車のわかれもつくまじやなをとへとひ

三十四　出る車ハ云まなひ　廿下　いつう

二十一　上段　思ひ出　山城の女蔵の宮まるハ為れを

三十上　君を思へとうかたり　中　廿下　拙をすまる

三十下　不公　廿上　金 笠の月よ乃　乃浮世とや行乃枝

三十四　月よハ行も暗うらひ　廿四　ちらゆさに

三十四　袖をとうちもひ　廿上　ちく雨乃夜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぶきてゆうぜずしていると
ひろ[illegible]
ぬさとて
色四方ね
海
どいたやきもつもや
宴紋をかくひ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

△遠帳法
男服(男)
羽織ハ用ル
袍ハ刀ヲ
世ハ
ヲ面
(金)口キ
先ヲ

曲出一拍子トル
位拍打切リ立
位破氣
世伺場

予刈
古き都乃道
早刈
雜波の
かゝ様ハ作ル
御ふ仕申
者ハ
頼ル
乳乃人
御里乃津國ハ
今一度ハ

あまをとめの
きよ風おそ
人をこぎ渡る
安倍の國み
なきいろの
人をて渡るそ
こゑかすれ
久しく家は
無数の乃内
日下の望よ
浦なみをすり
高くきの
高くて高く
浦波の者
とあり世紀
はるて渡るの
うらせのひと
ゆよ痛哉

小舟のきやすと荒波乃さとをへや
春の、、、

早
カ行く今吉洪有よハ庭ちゝ
ちゝ行なはや合山由を伝る申ける
まゝ
まゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]濱市[illegible]

中[illegible]男[illegible]洗[illegible]

て賣[illegible]

きの[illegible]

[illegible]賣[illegible]

論[illegible]

[illegible]

[illegible]

上方ニ一コトニ元トリキミ三世

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
露をもとめて独り上野の忍ばく
いづくにか人は申さるる山方
乃ちとりて行事をうたふ
[illegible]
御賣り物へさそふ
[illegible]
[illegible]

なくなりつる前は都の人とく新吸の
声を古賞歌とうたはれ
[illegible]
[illegible]
人のかたらひの露をかたる
[illegible]
きんへ
[illegible]
声を人間にまつとう
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みくしの
天水
梅
あり
きあれなてい
きやかて
ぬ
御津の濱
八尋
行
ぢ
行
御津の濱
八尋
行
ぬ
かぐきあくに
仁德天皇
うら
大宮
御津
濱
ぬ
大宮
濱
八尋
行
ぬ
ぬ
ぬ

舟のゐいやくしをあらうや上北
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃甲斐ありてべつの手より接ぶ
ものく寄し手あるべつ行家へ思ひき
はたの意ばかりく出さるべく
見しを唯浮かべうるうるうるうるは
べまれ乃人めしいのあるべつ思ひ寄
こゝにかくハ是とまるべのかを
ある計なり
ものゝ意の記別みしきねくの書わかき

弱弱人
芦火みなるあはれ
てべつの妻衣をあるべつ
御まし衣君なるてあるべつ
思ひなるべつ弱波ものべつ
ものゝうるべつるてべつ別ものゝ行
うゝ弱ばかべつ
なるあるべつ
なるあ津ありるべつ山乃べつはち帰乃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

増補當流謳直傳元本也

拍子。位。色。當。唐。持。清。濁。今。春。按。書。舞。
始。作。物。世。流。布。奬。来。之。品。并。口。傳。改。之。今。
加。秘。密。悉。為。増。補。拾。遺。大。例。者。也

ツモチ　ア當。イ色。ウ浮。ヲ唐。和。弱。
ス清。二濁。入。凡。ツ强。ラ。リ。迴

元禄八年乙亥九月吉辰

岡田三郎右衛門新開